

令和7年度第2回香美市振興計画等審議会

1 日 時 : 令和8年3月13日(金)10時00分から12時15分まで

2 場 所 : 香美市中央公民館1階大ホール

3 出席者 : 高知工科大学 教授 高木 方隆
高知工科大学 教授 上村 浩
香美市農業委員会 会長 岡田 修一
NPO 法人 いなかみ 代表理事 近藤 純次
香美市防災士連絡会 会長 武内 土佐雄
中央東福祉保健所 所長 谷脇 淑代
香美市社会福祉協議会会長 弘末 俊郎
香美市商工会 会長 三谷 勝義
物部森林組合 組合長 小松 律男
高知県産業振興推進地域本部
地域産業振興監(物部川地域担当) 江口 悟
香美市教育委員会 委員 浜田 正彦

4 欠席者 : 高知工科大学 副学長 岩田 誠

5 会議録要旨

(1) 議題1 アンケート結果概要について

- ・工科大学生のアンケート結果は、回答率が低いため、統計的に有意な結果が確認できないものとなった。
- ・ウェルビーイングアンケートの結果から香美市は、高知市や南国市と比較して歪なチャートとなっており、情報発信のあり方に問題があるのではないか。

(2) 議題2 人口ビジョンについて

- ・農業は、今の60代、70代がいるうちに、法人として営農組合を立ち上げて大規模化を進めていく必要がある。
- ・林業は、人材不足だけでなく、法的な規制が非常に多い業界であり、国や市からの補助金がないと採算が合わない状況にある。
- ・香美市の合計特殊出生率が低い理由は、高知工科大学あるため、(20代の)女性が多いためではないか。

(3) 議題3 基本構想(案)について

- ・今回の議論は、人口減少といった社会情勢が大きく変化してきた中で、これまでの基本理念を見直したうえで、計画を策定していくのかどうか、という話ではないか。
- ・まちづくり委員会の意見が市民の意見と一致しているということが、資料からは読み取れない。
- ・人口が減り、税収も減っていき、全てを行政がやっていくことはできなくなる。山での暮らしは、セルフビルドの時代になるのではないか。行政サービスも市街地と山間地域では全く両極端で異なっていくべき。
- ・利便性は、インフラの整っているところで使う言葉なので、香美市のようなところでは使うべきではない。
- ・基本理念として、「快適性」、「利便性」を導き出すにあたり、地価から導き出されたという説明は破綻している。
- ・結論を出すには、もう少し考える時間が必要なため、本日の意見を踏まえて、事務局で検討をいただき、改めて協議することとしたい。